

平成 25 年度
(第 2 事業年度)

事業報告

平成 25 年 4 月 1 日から
平成 26 年 3 月 31 日まで

公益財団法人ソルフェージュスクール

「平成 25 年度事業報告」目次

要 旨	1
-----	---

《事業活動》

ソルフェージュによる音楽指導及び普及（公益目的事業 1）

1. ソルフェージュに関する研究及びソルフェージュスクールの運営	
（1）ソルフェージュに関する研究および指導者育成	
① 研究発表会	
【ソルフェージュスクール演奏会】	2
【前・後期おさらい会】	3
【夏のコンサート】	3
② 講習会（研究会、試演会）	
【研究会】	4
【試演会】	5
③ 音楽会	
【春のコンサート】	5～6
【大村多喜子 追悼演奏会】	6～7
（2）ソルフェージュ・各種楽器・声楽等の実技指導及び普及	
【週 1 回のレッスン及び年数回の特別講習】	7
【月 2 回の合奏のレッスン（室内合奏団のレッスン）】	7
【春のミュージックキャンプ】	8
【夏季合宿】	8～9
【初見大会】	10
【ゲスト演奏家を交えた演奏会】	10
（3）海外の専門家（ソルフェージュ研究者等）との国際交流	10
（4）資料収集、出版物刊行及びホームページの充実	11～12
2. 音楽ホール、練習室の貸与	12
3. ソルフェージュ普及のための一般向け講習会、講演会開催	12～13

《管理部門》

1. 法人としての諸会議	14～15
2. 公益財団法人の内閣府への届出及び情報公開	15～16
3. 附属明細書について	16

要旨

公益財団法人としての 2 期目に当たり、ソルフェージュに関する研究及び指導者育成のための各事業内容の一層の充実を図り、とくに「大村多喜子追悼演奏会」では、ソルフェージュスクールに学んだ者が集い、当スクールの音楽教育で身につけたのは演奏技術のみならず人間性の豊かさであることを確認することができ、当財団の音楽教育方針の正しさを証明した。今後も引き続き、豊かな心の伴うわが国の音楽文化の発展に寄与していく決意を新たにした。

ソルフェージュに対する一般の理解を深め、ソルフェージュによる音楽指導及び普及を行うために、役員及び職員が一丸となって最大限の努力を尽くした平成 25 年度の活動の概況を報告する。

収支決算からは収入に占める寄付の割合が多く、継続して寄付が望めない場合は当スクールの受講生を 1.5 倍以上に増員しないとたいへんな赤字に陥ることが明らかになっており、寄付や補助金を如何に確保するか、また並行して如何に受講生の増加策を打つのか等、尋常ならぬ経営努力が求められていることを評議員及び役員一同真摯に受け止めており、来期の事業運営に反映させる所存である。

《 事業活動 》

ソルフェージュによる音楽指導及び普及（公益目的事業 1）

1. ソルフェージュに関する研究及びソルフェージュスクールの運営

当財団の運営するソルフェージュスクールにおいて下記の事業を行った。

（1）ソルフェージュに関する研究及び指導者育成

ソルフェージュの研究の促進及び指導者育成を目的として研究者、指導者及びこれから研究、指導を目指す者、また関心のある一般を対象とした研究発表会、講習会、音楽会等を開催した。いずれも一般に公開した。なお、これら事業内容の具体的な実施の詳細については、毎月の運営委員会で決定されている。

①研究発表会＝無料

いずれの研究発表会も日常の指導法研究の成果を確認することができた。

【ソルフェージュスクール演奏会 6月30日（日） 日本橋公会堂】

ソルフェージュスクールの受講生全員が、リトミック、室内楽、器楽合奏、弦楽合奏、合唱等のいずれかに出演する、外部のホールで催す年1回の定期演奏会。来場者がスクールの教育を大観し、ソルフェージュの教育を理解する重要な機会として位置づけている。

年1回、通常は異なる日に受講しているソルフェージュスクールの受講生が一堂に集まり、数回の合同練習を通して普段学習しているソルフェージュスクールでの成果がいかにかに活かされるかを体感し、また聴衆前で発表するというプロセスを学んだ。幼児のソルフェージュ及びリトミッククラスのデモンストレーションもあり、これらを一般公開してソルフェージュスクールの教育のあり方を提示した。

<プログラム>

1. ピアノ連弾

- A 雨ふりの午後は何する？ クラビソング コーヒーソング (L. シェア) (受講生 3 名)
- B この広大な土地 スコットランドのダンス 霧の港 母のお祭り (J. ジョージ) (受講生 2 名)

2. 室内楽

- A ヴァイオリン&チェロ ガヴオット (G.F. ヘンデル) (受講生 2 名)
- B 弦楽四重奏曲 Op. 96 "アメリカ" (A. ドヴォルザーク) (受講生 4 名)

3. リトミック A組(受講生 11名) B組(受講生 12名)

うた(受講生 25 名) とんとんともだち(サトーハチロー作詞 中田喜直作曲) ブンブンブン(ドイツ民謡)

4. 器楽合奏 ドイツ舞曲 K.V. 605-3 "そりすべり" (W. A. モーツァルト) (受講生 37 名)

ソプラノリコーダー(4名)、アルトリコーダー(3名)、テナーリコーダー(2名)、フルート(2名)、クラリネット(2名)、ホルン(1名)、パーカッション(12名)、ピアノ(1名)、ヴァイオリン(8名)、チェロ(1名)、コントラバス(1名)

5. 弦楽合奏 シンプル・シンフォニー (B. ブリテン) (受講生 16 名)

ヴァイオリン(11名)、ヴィオラ(2名)、チェロ(2名)、コントラバス(1名)

6. 合唱 「サウンド・オブ・ミュージック」より(R. ロジャース作曲 O. ハマスタイン作詞)

器楽合奏(19名)及びコーラス受講生及びOB父兄(21名)

【前・後期おさらい会】

10月と3月の二期に分けて開いた、器楽、声楽を学ぶソルフェージュスクールの受講生の発表会。一般公開し、本校での器楽教育の特徴を見てもらった。

器楽、声楽を学んでいる受講生(主に個人レッスン)は少なくとも年一回は人前で演奏披露することで、普段とは違う学習と練習を体験するという大切な場であり、また生徒同士、父兄、教師にとっては個人レッスンの進捗状況を知る良い機会である。

(前期)	10月20日(日)	当財団3階ホール	16名出演
(後期)	3月21日(金・祝)	当財団3階ホール	19名出演

【夏のコンサート 8月11日(日) 軽井沢ハーモニーハウス】

毎年8月に4泊5日で行う夏季合宿の成果を参加者全員で発表するコンサートである。

5日間の合宿でアンサンブルの研鑽を積んだそれぞれのグループが、研鑽の成果を一つの音楽会としてのプログラムにまとめ、日常の指導法研究の成果を確認し、コンサートとして一般に公開演奏し、好評を博した。

■軽井沢合宿ミニコンサート 8月11日(日) 15時開演 軽井沢ハーモニーハウス

〔プログラム〕

1	ヘンデル	合奏協奏曲 作品6-5 ラルゲット-アレグロ ラルコ-アレグロ	弦楽合奏
2	グリーク	ノルウェー舞曲	2Pf
3	ショップ	クーラント、サラバンド	2Vn Pf
4	ハイドン	ピアノ三重奏曲 二長調 第三楽章	Fl Vc Pf
5	ビゼー	間奏曲(カルメンより)	Fl Pf Cl
6	ローラ	ノットウルノ 第一楽章	2Vn Va
7	チャイコフスキー	弦楽六重奏曲「フィリツェの思い出」 第一楽章	2Vn 2Va 2Vc
8	プレトリウス	「舞曲集」よりバレー、クーラント、フィロー	リコーダ-アンサンブル
9	リュリ	シャコンヌ	2Vn Pf
10	イベール	「二つの間奏曲」より アンダンテ エスプレッシヴ	Fl Vn Pf
11	ベートーヴェン	ピアノ四重奏曲 変ホ長調 第一楽章	Pf Vn Va Vc
12	クロンケ	「二匹の蝶」よりモルトグイヴォ	2Fl Pf
13	デュボア	フルート四重奏曲より哀歌 ダンブーラン	4Fl
14	ドヴォルザーク	ピアノ五重奏曲 第一楽章	Pf 2Vn Va Vc

② 講習会（研究会、試演会）＝無料

【研究会 5月22日（水） 2月7日（金） 当財団3階ホール及び教室】

ソルフェージュ、器楽の教授方法、教本の使い方や生徒への対応の仕方など、時々のテーマを設けて講師一同及び参加者が意見の交換をしてレッスンの質の向上を目指すための研究会である。

◆5月22日：「ヴァイオリン奏法から考察した音楽」について／講師：林徹也（参加者12名）

長三和音か短三和音を響きの違いにより認識することが重要であり、和声の機能、とくに終止形の存在、フレーズの関連及び長調と短調の表す音楽が異なることそれぞれの認識の重要性を指摘。またリズム、強弱等譜面を正しく読み取る際に細部を見逃さないだけでなく大局的な目も大切であること、テーマとそのモチーフからはじまりフレーズ、セクション、楽章全体、全曲、さらに作曲家の特徴からその時代、その民族の特徴までも考察の対象とすべきであることが説明された。ヴァイオリンに限らず、当スクールの教育の中に十分に織り込まれていなければならない内容である。

◆平成26年2月7日：「ソルフェージュの教材」について／講師：大村明子（参加者10名）

ソルフェージュすることからスタートする当スクールのレッスンでは、楽器に触れる前に鳥かごの絵に音符を入れたり、リトミックを通してリズム、音符の長さ、種類等を身体で感じていくので、生徒は成長すると自然と音楽を感じられるようになっていく。また、大人数で一斉に進むのではなく、一人一人を大切に、臨機応変に生徒それぞれに合ったものを提供し、良さを見つけ出し伸ばしていくように工夫している。そのためには教師自身が研鑽を積み、引き出しを増やし、必要なものをいつでも与えられるようにしなければならない。年1回、生徒たちが全員参加する音楽会で、みなと一緒に音楽を作っていくことを学び、いろいろな楽器を使い、合奏、合唱等を経験して楽しむこと、合せることでソルフェージュの力が増し、人を思いやる心、コミュニケーション能力を増すことは素晴らしいことである。

（紹介教材）

「楽しい和音」村川千秋（音楽之友社）：ひじょうにやさしくカデンツア等も自然に身に付く

「Claude Vandamme 15 Etudes Rythmiques」：リズムの練習 2人の組合せ 強弱拍感が見に付く

「Jacques Casterede Les Intervalles」：音程の練習

その他「Music for Score Reading」、「通奏低音法」ヘルマンケラー（全音）

（他の先生からの紹介教材）

「Clef」：ソルフェージュ、読譜、リズム、聴音シリーズとして（国立音楽大学編 音楽之友社）

フランスの新傾向「Pierre Chepelov-Benoit Menut, La Dictée en Musique」

「M. Labrousse, Cours de Formation Musicale」：子供の音楽学校で使用

「ともだちのーと」石丸由理（ドレミ出版社）：視覚を通して音・リズムを学ぶ 親も喜ぶ

「魔法」 Bartok fur Kinder

「音楽史から見たリズムスタディ」（全音）

フレーズ感、休止の場所、大きく音が飛んだ場合等、楽器を弾くこととの関連性を小さいうちに身にしみ込ませておく。譜面をよく見ることで曲全体を見て、音楽を自分で奏でるために音符の役割を読み取る。また、波、風の音、鳥の鳴き声、光、風等、肌で感じるものを想像していく力が備わってくると表現力が増す。いろいろの場を想定して音楽を楽しむこと、時代背景や作曲者の意図等感じながら際限のない音楽の魅力を手に入れて楽しめるように、教師がお互いに教材を紹介しながら具体的に研究していくことが大切である。

【試演会 1月19日（日） 当財団3階ホール】

講師有志等の独奏或いはアンサンブルによる演奏を聴き合い、日頃教える立場にある者がお互いに具体例をもって意見を述べ合うことで良い研修の機会とするものである。

今回の試演会は3組の参加で、それぞれの講師がいま研究している曲、挑戦したい曲を取り上げた。(出席者8名)

(演奏内容) プログラム

1. ベートーヴェン／ピアノソナタ No.8 第二楽章	Pf. 込山今日子
2. モーツァルト／ヴァイオリンソナタ K.303	Vn. 妹尾美紀子
	Pf. 大村 明子
3. カユザック／カンティレーヌ	Cl. 古澤 裕治
	Pf. 込山今日子

暖かい陽ざしが差し込むホールで豊かな響きを楽しんだ。演奏後の談話では、次回は聴き手もつと参加して意見をのべる「before-after」が勉強になるのではないかとの意見が出た。

③ 音楽会＝有料

4月と12月に開く講師およびゲスト演奏家を交えての演奏会。音楽はソロだけではなく合奏の楽しさを味わい、音楽の喜びを得るというソルフェージュスクールの目標のひとつを、ソルフェージュスクールの講師が自らの演奏により、より多くの方へ伝えるためのコンサートである。

【春のコンサート 4月28日（日）午後2時開演 当財団3階ホール（有料入場者 59名）】

<プログラム>

ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第3番 ハ短調 op.1-3より (Vn, Vc & Pf)

1. Allegro con brio 2. Andante cantabile con Variazioni

ブラームス：ヴァイオリンソナタ 第2番 変ホ長調 op.120-2 (Va & Pf)

1. Allegro amabile 2. Allegro appassionato 3. Andante con moto

リード：ヴィクトリアン・キッチン・ガーデン組曲 (Cl & Pf)

プレリュードー春ー霧ーエグザティカ(異国風なもの)ー夏

アーン：

1.「僕の詩に翼があったなら」 2.「わたしがとりこになったとき」
3.「クロリスへ」 4.「覚えているよ」 5.「リラにくるうぐいす」(Sop & Pf)

プーランク：「愛の小径」 (Sop & Pf)

アーノルド：ブルジョア組曲

プレリュードータンゴーダンスーパレードーヴァルス (Fl, Cl & Pf)

(演奏講師)

江原陽子 Sop (歌: ソプラノ)	東京芸術大学卒業 本校出身
込山今日子 Pf (ピアノ)	桐朋学園大学短期大学部卒業
妹尾美紀子 Vn (ヴァイオリン)	桐朋学園大学卒業
林さち子 Pf (ピアノ)	オペリン大学卒業 インディアナ大学大学院修士課程修了 本校出身
林徹也 Va (ヴィオラ)	愛知県立芸術大学で学んだ後アメリカ、ドイツに留学 1977~2008年 シュトゥットガルト室内管弦楽団首席 ヴィオラ奏者 本校出身
古澤裕治 Cl (クラリネット)	桐朋学園大学及びブルーアン音楽院卒業
水野紀子 Pf (ピアノ)	桐朋学園大学およびデトモルト国立音楽大学卒業
山崎孝子 Fl (フルート)	東京音楽大学卒業
横井彩 Pf (ピアノ)	東京音楽大学卒業
吉村隆子 Vc (チェロ)	George Neikrug に師事 ポストン大学、ベルリン留学 本校出身

心躍る春にふさわしい曲目で会場全体が明るく楽しい雰囲気にも包まれた。ピアノとヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの弦楽器、クラリネット、フルートの管楽器そして歌とそれぞれの組合せが絶妙で、本コンサートの目的である合奏の楽しさを存分に披露でき、音楽の楽しみを十分に伝えることができた。

【大村多喜子 追悼演奏会 12月15日(日) 午後2時開演 JTアートホール アフィニス (有料入場者198名)】

例年はクリスマスコンサートを開いていたが、今年は、ソルフェージュスクール創設者大村多喜子没後1年3ヶ月の追悼演奏会を開催した。

演奏者はソルフェージュスクールの最初の生徒の1人でありアメリカで活躍中のヴァイオリニスト亀井由紀子を中心に、現在の生徒・講師およびOB有志、特別参加としてアメリカよりチェロのShu-Yi Pai。ソルフェージュスクール創立以来50年間に学んだ人たちと現に在籍する生徒たちが一堂に会し、スクールの教育の歴史的な実りが聴かれる会となった。

<プログラム>

- モーツァルト／アガエ ヴァルム コルプス (コーラス、室内合奏団)
- モーツァルト／弦楽五重奏曲 ハ長調
(Vn: 亀井由紀子、妹尾美紀子、Va: 林徹也、吉田恭治、Vc: Shu-Yi Pai)
- ストラヴィンスキー／エレジー (Vn Solo 亀井由紀子)
- バッハ／ヴァイオリン協奏曲 ホ長調 (Vn Solo 亀井由紀子、室内合奏団)
- モーツァルト／ラウダーテ ドミヌム (Sop 江原陽子、コーラス、室内合奏団)

(演奏者)

亀井由紀子 Vn(ヴァイオリン) 江原陽子 Sop(歌:ソプラノ) Shu-Yi Pai Vc(チェロ)
妹尾美紀子 Vn(ヴァイオリン) 林徹也 Va(ヴィオラ) 吉田恭治 Va(ヴァイオリン)
古澤裕治 指揮
コーラス(31名)、室内合奏団(15名)

(2) ソルフェージュ・各種楽器・声楽等の実技指導及び普及

4歳以上幼児から成人対象・有料

当財団が開発したソルフェージュットやリズムカード及び以前フランスで使われていた教本を翻訳・復元した教材等を用い、ソルフェージュスクールカリキュラムに沿って、具体的にリズム・拍・音程を習得させ、読譜力・視唱力・聴音力を身に付けさせた。それに器楽、声楽等の実技指導及び年数回の特別講習会を加え、音楽文化の理解を深めさせつつ実技を習得させた。

【週1回のレッスン及び年数回の特別講習】

1学期 4月9日(火)~7月23日(火)
2学期 9月6日(金)~12月21日(土)
3学期 1月10日(金)~3月22日(土)
特別講習 8月31日(土)及び9月1日(日)

(受講生数) 4月(101名) 5月(105名) 6月(102名) 7月(103名)
8月(103名) 9月(103名) 10月(103名) 11月(101名)
12月(101名) 1月(101名) 2月(102名) 3月(105名)

*レッスン及び特別講習の曜日、時間は月曜日を除く週6日の中から受講者と講師が相談して決めた。
原則として、週1回のレッスンとし、年間合計で40回プラス特別講習1回。

*受講費は別途入室案内に公開している。

【月2回の合奏のレッスン(室内合奏団のレッスン)】=受講生および一般対象・有料

*成人受講生主体で月2回の日曜日、弦楽合奏のレッスンと小グループによる室内楽のレッスンを行う。原則として月2回とし、年間で22回実施。

*受講生は一般から広く募集。

*受講費は別途入室案内に公開している。

【春のミュージックキャンプ】 = 受講生及び一般対象・有料

3月30日(土)、3月31日(日)2日間 当財団3階ホール及び教室

普段の個人レッスンではなかなか取り組めないアンサンブルの経験を積むための2日間の講座。受講生で組まれた様々なグループで曲を勉強し、2日目の最後に発表会を開催した。

(受講生) 11名

(講習曲目)

組曲(オットー)Rc & Pf、メンデルズゾーンとラハナーによる二つのデュオ(ハーム)2Fl & Pf、
 プレリュード(ショスタコヴィッチ)2Vn & Pf、ファンタジア(パーセル)2Vn & Vc、ジーク・ボロネズ(L.モーツァルト)Vn & Vc、
 主よ人の望みの喜びよ(バッハ)2Pf、朝の新聞(シュトラウス)どんぐりころころ(染田貞)3Pf、
 14歳(谷川雁作詞 新実徳英作曲)Perc, Vo & Pf、子守歌(シューベルト)Pf、ドイツ舞曲(モーツァルト)Pf、
 スローワルツとカリプソ(A. フォスター)全員合奏、初見等

(指導講師) 山崎孝子、古澤裕治、妹尾美紀子、吉村隆子、水野紀子

ミュージックキャンプ発表会 2013年3月31日 15:00~当財団3階ホール

1	朝の新聞 どんぐりころころ	シュトラウス 染田貞	受講生2名、 水野先生
2	ファンタジア	パーセル	受講生3名
3	ジーク	モーツァルト	受講生2名
4	メンデルズゾーンとラハナーによる二つのデュオ	ハーム	受講生2名、 山崎先生
5	プレリュード	ショスタコヴィッチ	受講生3名
6	十四歳	谷川雁 作詞 新実徳英 作曲	受講生5名
7	主よ、人の望みの喜びよ	バッハ	受講生2名
8	子守歌、 ドイツ舞曲	シューベルト モーツァルト	受講生2名 古澤先生
9	組曲 プレリュード、アルマンド、ジーク	オットー	受講生1名 山崎先生
10	スローワルツとカリプソ	A. フォスター	全員合奏

【夏季合宿】 = 一般対象・有料

8月8日(木)~8月12日(月)4泊5日 軽井沢ハーモニーハウス

中学生以上を対象として毎年4泊5日で行う軽井沢での合宿。春のミュージックキャンプより一層深く曲に取り組み、演奏発表を目標にして、2人のアンサンブルから全員による合奏まで様々な

形の曲を勉強した。また食事作りの手伝い、後片付け、宿舎の掃除など生活面の仕事を皆で行うことで親密な雰囲気を作り、音楽の勉強に留まらず、相手への思い遣りなど、アンサンブル、合奏に不可欠な要素を共同生活の中で自然に身に付けられるようにプログラムを組んだ。

■講師陣

- ・弦楽指導 亀井由紀子 (Vn)、妹尾美紀子 (Vn)、林徹也 (Vn, Va)、吉村隆子 (Vc)
- ・管楽指導 山崎孝子 (F1)、古澤裕治 (C1)
- ・ピアノ指導 大村明子、横井彩

■カリキュラム

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
8/ 8(木)	11時集合 大宮より新幹線で軽井沢へ						開校式	レッスン				夕食	自由練習		
8/9(金)~10(土)	朝食	レッスン			昼食	自由時間	レッスン				夕食	自由練習 ゲーム大会			
8/11(日)	朝食	ゲネプロ&練習			昼食	練習&会場準備		発表コンサート			バーベキューパーティ				
8/12(月)	朝食	清掃, レクリエーション, 昼食, アンサンブルなど						新幹線で帰京・解散							

■内容

同じレベルの受講生によるクラスを編成し、クラスごとに1時間単位のレッスンを3~4回行った。

弦楽四重奏、ピアノ三重奏、フルート四重奏、連弾などの小編成のアンサンブルに加え、弦楽合奏、協奏曲、管楽アンサンブル、リコーダーアンサンブルなど大編成のものまで幅広く指導し多様な経験をさせた。(受講生 18 名)

(練習曲目)

- ルウェー舞曲 (グリーグ)、ガウオット (プロコフィエフ) : 2Pf ラ・フォルア (コレルリ) : 2Vn、シャコンヌ (リュリ) : 2Vn&Pf
- 二つの間奏曲 (イベール) : Fl, Vn, & Pf ピアトリオ ハ長調 (ハイドゥン) : Pf, Vn&Vc
- ティウエルティメント、カルメン間奏曲 (モーツァルト) : Fl, C1 & Pf ピアトリオニ長調 (ハイドゥン) : Fl, Vc & Pf
- ノットゥル変ホ長調 (ローテ) : 2Vn & Va クーラント、サラバント (ショップ) : 2Vn & Pf 二匹の蝶 (クロンケ) : 2Fl & Pf
- ピアノ四重奏曲 ホ長調 (ベートーヴェン) Pf, Vn, Va, Vc ピアノ五重奏曲 (ドヴォルザーク) : 2Vn, Va, Vc, Pf
- 弦楽六重奏曲「フレツェの思い出」(チャイコフスキー) : 2Vn, 2Va, 2Vc
- コンチェルト グロッツ Op. 6-5 (ヘンデル) : 弦楽合奏、ピアノ初見、リコーダーアンサンブル

- 軽井沢合宿ミニコンサート 8月11日(日) 15時開演 軽井沢ハーモニーハウス (無料)
軽井沢滞在中の一般の方々に合宿の成果を披露した。*1. (1) ①[夏のコンサート]参照

【初見大会】＝受講生および一般対象・有料

小3以上を対象とし、初見で演奏する力を養うためのアンサンブルによる1日の講座で7月と12月の2回開催した。個々の参加者の実力に合わせて無理なく楽しく初見の体験を積むように指導者が導いた。複数回の受講経験者に見られる進歩には顕著なものがあった。

＜夏季 7月14日（日） 当財団3階ホール及び教室＞

受講生：8名

指導講師：古澤裕治,込山今日子,妹尾美紀子,林徹也,吉村隆子

＜冬季 12月22日（日・祝） 当財団3階ホール及び教室＞

受講生：7名

指導講師：糸井みちよ,妹尾美紀子,古澤裕治,込山今日子,林さち子,吉村隆子

【ゲスト演奏家を交えた演奏会】＝ソルフェージュスクール関係者及び一般対象・有料

当スクールが創立時から連綿と続けているソルフェージュによる音楽教育の主旨を咀嚼し、その成果を一般に広く紹介し、ソルフェージュに対する一般のさらなる理解とソルフェージュによる音楽指導及び普及の促進を図るための演奏会。

本年度は、12月15日の「大村多喜子 追悼演奏会」がこの演奏会である。詳細は6頁参照。

（3）海外の専門家（ソルフェージュ研究者等）との国際交流＝一般対象

Shu-Yi Pai が米国から来日。共にアンサンブルを共演することにより、Shu-Yu Pai の持つ音楽性及び音楽観を体感することができた。

Shu-Yi Pai（白書怡）略歴

台湾生まれ。24歳の時、ドイツのFrankfurter Musik Hochschuleでマスター及びドクターの学位を得る。ソリストとして、米国内、ヨーロッパ及び台湾の数多くのオーケストラと協演。室内楽奏者としてドイツのThe Chamber Music Award銅賞を受賞し、中国、ヨーロッパ及び米国において、サンフランシスコシンフォニー、ベルリンフィルハーモニー、Wiesbaden Opera及びOpernhaus Frankfurtのメンバーと共に室内楽を演奏。また、サンフランシスコシンフォニーの多数の演奏会及び11個のグラミー賞を得た同シンフォニーのマーラーの交響曲の録音演奏に参加。最近では上海芸術学校でマスタークラス及びオーケストラのチェロ部門を指導。現在は、Diablo Valley College (San Francisco Bay Area)の教授を務めている。

(4) 資料収集、出版物刊行及びホームページの充実

ソルフェージュ教育に必要な図書、楽譜、楽器を購入すると共にソルフェージュの普及のために研究成果及び教育内容などの出版を、また授業についてはホームページに掲載した。ホームページの内容充実と更新を継続して行った。

① ソルフェージュ教育に必要な図書、楽譜等の購入

下記の図書、楽譜等を購入した。

- (購入楽譜) ラーニングトゥプレイⅡ (3冊)
- グローバーピアノ教本併用Ⅱ (2冊)
- グローバーピアノ教本Ⅱ (2冊)
- バーナムピアノテクニックⅠ (5冊)
- バーナム導入書 (2冊)
- バーナムミニブック (2冊)
- トンプソン現代ピアノⅠ (2冊)
- ツェルニー40番の練習曲(1冊)
- Introducing The Positions Vol.1 (3冊)
- String Builder BookⅠ (3冊)
- ホームマン教則本Ⅰ (2冊)
- 篠崎バイオリンⅠ (1冊)
- 鈴木指導曲集4 (2冊)
- 鈴木指導曲集3 (2冊)
- 鈴木指導曲集1 (2冊)

② 機関誌「ソルフェージュスクール新聞」の発行

ソルフェージュスクールの年間の事業等の記録を一般に紹介するために、3月に800部発行し、受講生、賛助会員、寄付者及び一般に無料配布した。

③ ソルフェージュ指導楽譜の発行 (教材として使用し、一般に実費配布)

下記の指導楽譜を発行し実費販売した。(合計 8件)

シャセバン1 ¥525- シャセバン2 ¥420- シャセバン3 ¥420-

④ ソルフェージュ教育の理念を著した冊子の発行 (一般に実費配布)

当財団の設立者たちがソルフェージュ教育の理念について書き残した文書を冊子として発行し、一般への普及を図るために、文書類の整理を昨年度に引き続き行った。

⑤ ホームページの充実

ホームページを通じて、幼児、子どものみならず成人とくに年配者に対して、いつからでも音楽を学ぶことはできること、音楽を通して人間として豊かな心を育むことができることを強く訴えるため、そして、日本の音楽文化を持続させ発展させていく人材を増やしていくために、ホームページの内容の充実及び適切な更新を図った。

役員名簿、定款、役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程、事業報告書、財務諸表、貸借対照表については平成 23 年度と平成 24 年度、収支予算書、事業計画書については平成 24 年度から平成 26 年度を公開している。

⑥ 他のデータシステムとの連携

NOPODAS（非営利法人データシステム）、文部科学省関係法人名鑑及び音楽教育関連データシステム等に登録をして当財団の周知向上を図った。

2. 音楽ホール、練習室の貸与

当財団の所有するホール及びピアノの設置された教室（練習室）を、当財団が使用していない時間に、当財団の事業及び公益目的に合致する者に低廉な対価で貸与した。（総貸与件数 52 件）

＊随時受付、費用は別途料金表に公開している。

3. ソルフェージュ普及のための一般向け講習会、講演会開催＝一般対象・原則として無料

【合奏及び室内楽演奏法】 原則として月 1 回 当財団 3 階ホール

室内楽授業を、原則として月 1 回、一般に無料聴講できるように公開し、合奏及び室内楽の演奏法を習得してもらうと同時にソルフェージュ教育の成果を実感してもらった。

実施月： 4 月、5 月、6 月、7 月、9 月、10 月、11 月、12 月、1 月、2 月、3 月

指導講師： 林徹也（元シュトゥットガルト室内管弦楽団首席ヴィオラ）

【冬季講習・講演会】

「亀井由紀子特別公開レッスン」＝ソルフェージュスクール関係者及び一般対象

12 月 16 日（月）と 17 日（火）、当財団 3 階ホールにおいて、当スクールに学びプロの演奏家としてアメリカで活躍中のヴァイオリニスト亀井由紀子氏による特別公開レッスンを開催。受講生 2 名のレッスンを 21 名が聴講した。

私の二人の師、大村多喜子先生とヤッシャ ハイフェッツ先生は、両氏のそれぞれの先生（ハンス レッツ教授とレオポルド アウアー教授）を介してヨアヒムの孫弟子でした。大村、ハイフェッツ両先生の全く違う教え方の中心に共通してあったのは、音楽を学ぶ＝楽譜をよく解読する、と言う姿勢であり、又、歌をうたう、ピアノを弾く、ヴィオラを弾く、室内楽をする、ことでした。室内楽を片っ端から弾きまくる愉しさの中に、音楽を深く理解し、演奏スタイルを習得する訓練がありました。音楽家としての手段がたまたまヴァイオリンを弾く事でした。勿論、両先生から教えていただいたヴァイオリンの美しさへの憧れは消える事はありません。今回の公開レッスンでは、日本とアメリカで私が経た音楽体験から「何を、ヴァイオリンを通して言いたい？」という事を皆さんとご一緒に共有して行きたいと願っています。（亀井由紀子）

受講生が選んだ曲のレッスン。曲を通して何を表したいのか、何を語りたいのか、一音一音よく考えて自分の出す音をよく聴くこと、ピアノとヴァイオリンで奏するソナタはそれぞれの楽器のバランスが大切であることをていねいに説明しながら、弓の使い方から練習方法まで実際に演奏しながら指導する亀井由紀子氏の熱情が受講生のみならず聴講生にも伝わり、ひじょうに実りのある講習であった。

亀井由紀子略歴

東京生まれ。幼少よりヴァイオリンを大村多喜子に師事。大村氏創立のソルフェージュスクール発足時よりソルフェージュ、和声、合奏、室内楽を学ぶ。都立駒場高校音楽科（現、都立芸術高校）卒業後、渡米。南カリフォルニア大学にて巨匠、ヤッシャ ハイフェッツの日本人初の弟子になりハイフェッツマスタークラスで教えを受ける。後、彼のアシスタントを務める。ハイフェッツ、ピアティゴルスキーらとの室内楽演奏をはじめ、アメリカ、ヨーロッパ、日本各地の数多くの室内楽フェスティバルに参加。シトカ音楽祭（アラスカ）の創立メンバー。ロサンジェルス室内楽祭を創立、ディレクターを10年務める。東京、ニューヨーク、ロサンジェルス、アムステルダム、サンパウロ等でリサイタル。ケント ナガノ指揮でチャイコフスキー、メンデルスゾーンのコンチェルト、および、ミヨー「シネマファンタジー」シュトラウス「英雄の生涯」のソロを演奏。ラザロフ「ヴァイオリンコンチェルト」をサンフランシスコで世界初演、ジェラルド シュワルツ指揮シアトルシンフォニーとレコーディング。ブロッホ「ヴァイオリンソナタ」2曲、フランク「ソナタ」、ウオルトン「ソナタ」をはじめ室内楽レコーディングも多数ある。南カリフォルニア大学（USC）、カリフォルニア大学（UCLA）にて長年教鞭を取る。現在はサンフランシスコシンフォニーに席をおく傍らソロ、室内楽の演奏、後輩の指導にかかわる。2011年制作ドキュメンタリーフィルム「God's Fiddler - Jascha Heifetz」ではハイフェッツの元アシスタントとしてインタビューを受けた。

《 管理部門 》

1. 法人としての諸会議

平成 25 年 5 月 16 日

・決算監査

開催場所 当財団 2 階会議室

出席等 監事：出席 2 名

平成 25 年 5 月 31 日

・平成 25 年度 第 1 回通常理事会

開催方法 通常招集

開催場所 当財団 2 階会議室

決議事項 1. 平成 24 年度事業報告及び決算並びに基本財産繰入れの件
2. 平成 24 年度事業報告書等に係る提出書類の件
3. 定款の一部変更の件
4. 後援会用の口座開設の件
5. 定時評議員会招集決議の件

出席等 決議に必要な理事の数 3 名、理事：出席 6 名、監事：出席 2 名

平成 25 年 6 月 18 日

・平成 25 年度 定時評議員会

開催方法 通常招集

開催場所 当財団 3 階ホール

決議事項 1. 平成 24 年度事業報告及び決算並びに平成 24 年度事業報告書に係る提出書類の件
2. 定款の一部変更の件

報告事項 ソルフェージュスクールの現状について

出席等 決議に必要な評議員の数 3 名、評議員：出席 5 名、欠席 1 名、
監事：出席 2 名、理事：出席 4 名、欠席 2 名

平成 25 年 10 月 31 日

・平成 25 年度（第 1 回）臨時理事会

開催方法 通常招集

開催場所 当財団 2 階会議室

決議事項 償還期限を迎えた及び迎える基本財産である国債の取り扱いの件

報告事項 代表理事及び業務執行理事から職務執行状況の報告（平成 25 年度
1 回目）

出席等 決議に必要な理事の数 3 名、理事：出席 6 名、監事：出席 2 名

平成 26 年 2 月 27 日

・平成 25 年度第 2 回通常理事会

開催方法	通常招集
開催場所	当財団 1 階会議室
決議事項	1. 平成 26 年度事業計画書及び収支予算書の件 2. 平成 25 年度臨時評議員会開催の件 3. 償還期限を迎えた基本財産である国債の買換えの件
報告事項	1. 代表理事及び業務執行理事の職務執行報告（平成 25 年度 2 回目） 2. 現理事全員の任期満了の件
出席等	決議に必要な理事の数 3 名、理事：出席 5 名、欠席 1 名、監事：出席 2 名

平成 26 年 3 月 25 日

・平成 25 年度（第 1 回）臨時評議員会

開催方法	通常招集
開催場所	当財団 2 階会議室
決議事項	定款の変更の件
報告事項	平成 26 年度事業計画書及び収支予算書の件
出席等	決議に必要な評議員の数 3 名、評議員：出席 4 名、欠席 2 名 監事：出席 2 名、理事：同席 6 名

（その他） 運営委員会を毎月 1 回、さらに 9 月からは業務会議を週 1 回開き、日常的な業務執行の内容、経過等の協議を重ねた。

2. 公益財団法人の内閣府への届出及び情報公開

平成 24 年 3 月 21 日付で公益認定を取得した当財団は、平成 24 年 4 月 1 日に移行登記を行い、公益財団法人移行後 2 期目の平成 25 年度事業報告及び収支決算書を内閣府へ届出するものである。

平成 25 年 3 月 27 日付けで平成 25 年度事業計画書及び収支予算書を、同年 5 月 10 日付けで役員等報酬規程改正及び理事 1 名を非常勤から常勤へ変更したこと、同年 6 月 27 日付けで平成 24 年度事業報告書及び収支決算書を、また平成 26 年 3 月 27 日付で平成 26 年度事業計画書及び収支予算書を内閣府へ電子申請により届出を行った。

役員名簿、定款、役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程、また事業報告書、財務諸表、貸借対照表については平成 23 年度と平成 24 年度、収支予算書、事業計画書については平成 24 年度から平成 26 年度を w e b サイトで公開している。

3. 附属明細書について

平成 25 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので作成しない。

平成 26 年 6 月

公益財団法人ソルフェージュスクール